

Case 19-2004: A 12-Year-Old Boy with Fatigue and Eosinophilia
(Volume 350: 2604-12)

【症例】12 歳 男性

【主訴】倦怠感、好酸球増加

【現病歴】

1 週間前から倦怠感のため学校を休みがちで、食欲も低下していた。間歇的な筋肉痛、四肢の痛みも感じており、前胸部痛は動作・深呼吸・咳で憎悪するとのことだった。母は最近患者の体温が高いと感じており、最高 38.3 度を計測していた。イブプロフェン・アセトアミノフェンを試したが、どちらもあまり効果がなかった。頭痛・嘔吐・尿便の変化・盗汗は見られない。家庭医がとった身体所見には異常は認められなかったが、血液検査で好酸球異常高値を指摘され、精査のために当院に紹介された。

【既往歴】生来健康。3 週間前に風邪が自然治癒していた。学校での成績は良好。行動的で入院歴・手術歴なし

【アレルギー】なし

【生活歴】両親兄弟と同居。犬・トカゲ・魚をペットとして飼っていた。海外旅行の既往なし

【家族歴】母：潰瘍性大腸炎、上行性胆管炎、大腸癌（大腸切除および化学療法で寛解に至っている）母側の祖母：白血病により死去 遠い親戚には心臓病・黒色腫・卵巣癌がみられる

【受診時現症】

Ht 146.2cm, BW 33.9kg, HR 120/min: regular, RR 22/min, BP 102/50 mmHg, Cons.: alert & oriented <HEENT> 両頬軽度発赤 <胸部> n.p. <腹部> n.p. <リンパ節> 鼠径部に数個（いずれも 1.5cm 未満）を触知 <陰部、皮膚、四肢、神経> 特記すべき所見なし

追加検査として胸部 Xp、蠕虫感染を疑っての血清学検査、免疫グロブリン定量検査、寄生虫・卵の検出のための便検査が行われた。

【受診時検査所見】

<CBC> WBC 60800/ μ l (Neu 17%, Band 1%, Lym 10%, Mono 1%, Eos 72%, Bas 1%), Ht 37.5 %, Hb 13.4, MCV 82, MCH 29.2, MCHC 35.6, 網状球 2%, 赤血球形状に異常なし, Plt 438000/ μ l, ESR 51mm/hr

<生化学> Cre 0.7mg/dl, Glu 53mg/dl, TB 0.3mg/dl, TG 8.2g/dl, Alb 2.7g/dl, Na 133mM/l, K 3.5mM/l, Cl 92mM/l, Cr 0.7mg/dl, Ca 8.7mg/dl, P 3.5mM/l, ALP 106U/l, AST 22U/l, ALT 10U/l, LDH 437U/dl (0-210), IgG 1870mg/dl, IgA 417mg/dl, IgM 203mg/dl

<CXR> n.p.

そしてある診断学的検査が施行された。